



「天の川のロマンス」 (The Romance of the Milky Way)

小泉八雲 (Lafcadio Hearn)

むかしの日本が行ってきた数ある風雅な行事のなかで、なんといってもいちばんロマンティックなものはタナバタサマの祭りであった。

：

七夕祭りにゆかりのある出雲の風習の中で、いちばん奇妙なのは、ネムナガシという儀式だ。これは、まだ夜の明けないうちに、若い衆たちが、ネムの葉とマメの葉を一つ束にしたものを持って、近くの流れ川へ行く。川へ行くと、みんなして、その葉っぱの束を流れの中へ投げこんで、口々に短い歌をうたう。

ネムハ、ナガレヨ
マメノハハ、トマレ

この歌には、二通りの解釈がある。ネムということばは、「眠り」という意味にもとれるし、また、ネムリ木、つまり、ネムの木(ミモザ)の意味にもとれる。一方、マメということばは、「豆」ともとれるし、「活動」「力」「元気」「健やか」という意味の、「ままやか」の「まめ」にもとれる。いずれにしても、この儀式は象徴的なもので、歌のこころは、

眠気よ、去れ
元気の葉よ、とどまれ

というのである。この歌をうたい終わると、若い衆たちは、みないっせいに川の中へ飛び込んで、水を浴びたり、泳いだりする。つまりそれは、来年は怠け心をすっかり洗い落として、元気いっぱい、精出す心を持つ、という覚悟のしるしなのである。

(平井呈一訳)

原文は、

<http://lafcadiohearn.jp/articles/RomanceMilkyWay.html>

を参照のこと。